

なん ぶ こ び き う た
南部木挽唄

- ◇ 指定日 令和4年2月16日
- ◇ 所在地 川井
- ◇ 保持団体 みちのく民謡会

木挽唄は、旧川井村の木挽職人や大工職人の間で、木材の伐採や板挽きなどの作業に合わせて歌われた仕事唄です。江戸時代に数多くの仕事唄が発祥したと推定されています。

旧川井村箱石の木挽き職人、橋場六蔵(明治32年生まれ)が、昭和60年(1985年)にうたった音源が現存し、橋場の唄は装飾音もなく素朴で、現在うたわれている南部木挽唄の原型であるといえます。

歌詞には、当時の木挽職人の心情や生活がにじみ出ており、「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」(国指定重要有形文化財)に見られる、昔の山仕事や山里の暮らしがしのばれる唄です。



南部木挽唄全国大会 (2014 年)

【南部木挽唄】

へ ハー木挽居たよだ
 ハアあの沢奥にヨー
 ハアー今朝もやすりの
 オヤサハア音がするヨー
 へ ハー親方金貸せ
 ハア鋸の目が欠けたヨー
 ハアー鋸は嘘だよ
 オヤサハア逢いに行くヨー